

「つなみのひ」道徳学習指導案(高学年用)

- 1. 主題名** 自分の役割をしっかりと 4 - (3)
- 2. ねらい** 自分の役割を自覚し、主体的に行動し、集団の役に立とうとする態度を養う。
- 3. 資料** つなみのひ (紙芝居)

4. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

集団と個の関わりの基本を述べたものであり、身近な集団の中で自分の役割と責任を主体的に果たす児童を育てようとする内容である。

集団の中で一緒に行動する楽しさや、集団の役に立つ喜びを感じ取らせながら、主体的な活動への意欲を高めることが大切である。また、集団といってもいろいろなケースがある。どのような場合でも、自分の役割を自覚することが大切であり、その上で助け合おうとする態度を育てていきたい。

(2) 児童の実態 (略)

(3) 資料について

大きな地震とつなみを経て、避難所での生活が始まったコタローたち。

みんなそれぞれ自分の役割を果たして、みんなのために働こうとしている。

また、筏作りの場面では、沖合の島に流れ着いた仲間を助けに行くためにみんなで協力して大きな筏を作っている。

このような場面を通して、一人ひとりが集団の中で、役割を自覚して、助け合おうとする態度を育てていきたい。

5. 資料活用の工夫

この紙芝居では、助け合って暮らしたり、協力し合って仲間を助けたりする場面が重要である。高学年では一人ひとりが役割を自覚して、責任を持って行動することが、助け合いにつながるということを感じ取らせて、役割を自覚して、集団の役に立とうとする態度を育てたい。

6. 展開

| | 主な発問と予想される児童の反応 | 指導上の留意点・評価(☆) |
|----|---|--|
| 導入 | <p>1. 学校や学級、家での役割を発表する。</p> <p>○学校や学級、家で、どんな役割があるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞を取りに行くのが僕の担当。 ・委員会活動で、書記をしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で、受け持っている役割を思い出させ、ねらいとする形についての問題意識を持たせる。 |
| 展開 | <p>2. 資料「つなみのひ」を視聴して、話し合う。</p> <p>①ポンタがいなくなって、コタローは、どんなことを考えていたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大丈夫かな。 ・早く見つかってほしいな。 ・助けたいな。 <p>②みんなは自分の役割をどんな気持ちで行っていたか。</p> <p>ア、みんなのために、自分のできることは、しっかりやるう。</p> <p>イ、これだけやっていればいいのかな。</p> <p>ウ、大変だけど、責任を持ってやらなければ。</p> <p>エ、大変だな、やめようかな。</p> <p>③いなくなったみんなが助かったとき、コタローはどんな気持ちだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無事でよかった。 ・みんなで助け合ったから、助かったのだ。 ・一人ひとり、自分の役割を、責任を持ってやってよかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居で資料を提示する。 ・ポンタが見つからないときの、コタローについて考える。 ・コタローやほかのものたちに共感させ、役割分担の仕事をしているときの気持ちを出させる。 ・役割をしっかり果たしたときの喜びを感じ取らせる。 |
| | <p>3. 自分の役割をやっているときの気持ちを発表する。</p> <p>○自分の役割をどんな気持ちでやっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかり責任を果たそうという気持ち。 ・みんなのためになるといいな。 | <ul style="list-style-type: none"> ・役割の大切さと、責任を果たすことの大切さを振り返らせる。 |
| 終末 | <p>4. 教師の話を聞く。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・役割を果たしてよかった経験を話す。 |